

既にもっている見方や考え方

・植物や鳥など、どのような種類が校区に生息しているのかよく知らない。

(1) ウォークラリーの実際

【視点③】親子で校区の自然に触れ合う機会を設ける。

ミッション1 「ゲットせよ！」

- 丸い石
- できるだけ大きな葉
- 茎の長いタンポポ

一番丸い石や大きな葉、一番茎の長いタンポポを見つけたチームには、5点のボーナスポイント

ミッション2

「パズルを完成させよ！」

- チェックポイントを回り、パズルのピースを集めよ。
- パズルが完成したら、ミッション成功！

完成したら得点は5点

ミッション3 「見つけよ！」

- フラントにある植物や生き物を見つけよ。
- 見つけたら写真を撮影せよ。

1つ見つけたら得点は1点
写真を見て、像体部で判定を行います。できるだけ鮮明な写真を撮影してください。

ミッション4 「鳥を当てよ！」

- 校長先生から出題される鳥の問題。
- チャレンジは2回までできる。

正解は5点。
ゴール地点で1回チャレンジできる。

ミッション5 「花を当てよ！」

- 谷川先生から出題される花の問題。
- チャレンジは3回までできる。

正解は2点。
谷川先生は石浜公園のどこかに！

ミッションが書かれた表

今年度の親子レクリエーションは「親子ウォークラリー」を実施した。全校児童とその保護者が集まり、校区を散策した。本校の校区は、豊かな自然に恵まれており、豊かな自然を実感できるようなミッションを設定し、7人程度の異学年児童とその保護者で班を作り、話し合いながら活動を行った。右の表は、ミッションを示した表である。ミッションを得点することで、各班競い合って活動を行った。



ミッション3「見つけよ！」の写真の一部



ぼく達の班が見つけた「丸い石」。田んぼのあぜ道で発見！しました。



そうみたいです
ね。写真に撮って
おきましょう。

この写真の植物
じゃないかな。これ
だと思うけど。



ここにテントウ
ムシがいるよ。写真
撮って！

用水路にシジミが
いるって知らな
かった。



たくま君のお
母さんが見つ
けたタンポポ
の方が長い
ね。

比べ合いっこ
しよう。

この鳥の名前
は何でしょう？
この辺りでよく
見かけますよ。



知っています。「
ホトトギス」
です。『稲田の
野鳥』で紹介
されていました。



この植物の名前を知っています。「ホトケノザ」です。校庭にたくさん咲いています。春の七草ですよ。

優勝おめでとう。

上を見て。サクランボみ
たいな実がついているよ。



トロフィーがもらえてうれしいです。



今年度、初めて実施した「親子サイエンス・ウォークラリー」は、高橋2班が優勝した。多くの班が、ミッション3「見つけよ!」の50種類の生き物をほとんど見つけていた。ミッション1「ゲットせよ!」では、甲乙付けがたいほどの丸い石を探してきていた。

今回の「親子サイエンス・ウォークラリー」では、どの班も時間いっぱい活動する姿が見られた。また、参加者全員が笑顔で楽しみながら活動していた。

【児童の感想】

班の友だちとみんなで話し合ったり考えたりしながら、草花を探したりクイズに答えたりするのがおもしろかったです。

通学や遊びの時には気付かなかった草や鳥のことを初めて知ることができたので良かったです。身近にこんなにたくさんの草花があるのだと知り、驚きました。またやりたいです。

【保護者の感想】

日頃は時間と気持ちに余裕がないので気付きませんでしたが、身近な植物、鳥、石などに関心を持つことができました。

普段は車でしか通らない道を、草花などに気を止めながら歩くことは、何年ぶりくらいだろう・・・と思い、童心に返ったような気分で歩きました。自然に恵まれた地域の良さに改めて気付くことができました。また、子どもが予想以上に草花や鳥の名前を知っているので驚きました。

科学的な見方や考え方

- ・校区には様々な種類の植物や野鳥がいることがわかり、どのような環境に生息しているのか分かる。

(2) 考察

- ミッションを設定することで、児童だけでなく、保護者も楽しんで活動することができた。お父さん同士で植物探しに夢中だったり、写真撮影を積極的にされたりなど、たくさんの植物や生き物を見つけようと保護者の方々が予想以上に意欲的に活動されていた。【視点③】
- 児童や保護者の感想にもあるように、実際に歩いて観察することで、今まで気付かなかった校区の良さを感じることができた参加者が多かった。【視点③】
- 児童と保護者が一緒に活動することで、児童が理科に対して高い関心を持っていることや、豊富な知識を身に付けていること、鋭い観察眼や視点で事物現象をとらえていることなど、本校児童の実態を保護者が認識することができた。
- 学校に掲示していた野鳥や植物に関する問題も出題されたが、低学年児童がずばり答えを言い当てるなどした。理科的環境を整備し、児童が自然に興味を持てるような取り組みを続けた成果を感じた。【視点③】

